

が貫通している。何らかの帳簿整理にかかわるものと推定される。

この他SD一八〇から一点出土しているが、墨痕が認められるだけで判読は困難である。

三 第一二次調査

(4) [○□□□]

(150)×22×3 019

上端から一七mmの位置に小孔がある。

釈文・内容については、関係文献③④に平川南氏の報告があり、本項はそれを引用・要約したものである。

9 関係文献

①多賀城市埋蔵文化財調査センター『山王遺跡―第九次発掘調査報告書―』(一九九一年)

②同『山王遺跡―第一〇次発掘調査概報(仙塩道路建設に伴う八幡地区調査)―』(一九九一年)

③同『山王遺跡―第一二次調査概報(仙塩道路建設に伴う八幡地区調査)―』(一九九二年)

④同『山王遺跡ほか―発掘調査報告書―』(一九九三年)

(千葉孝弥)

多賀城市文化財調査報告書第三九集

『山王遺跡―第一七次調査―出土の漆紙文書』の刊行

多賀城市山王遺跡は多賀城の南西、砂押川の西岸に位置している遺跡である。出土文字資料として木簡・漆紙文書などがあり、その内容から国司館や漆工房の存在が推定されている。漆紙文書についてはすでに二点が報告されているが(多賀城市埋蔵文化財調査センター『山王遺跡―第二二次調査概報』一九九二年)、その後出土した五点についての報告書が刊行された。

釈文、現状写真、赤外線テレビの画像の図版を掲載し、関連する木簡、正倉院文書などの史料の検討を踏まえた解説を付す。中でも駅戸編成のあり方を示す記載を含む計帳歴名(三号文書)、現存計帳とは戸口の記載順を異にする計帳様文書(四号文書)などが注目される。

多賀城市埋蔵文化財調査センター編集

多賀城市教育委員会発行

一九九五年三月刊

図版一枚、本文三〇頁、B5版

頒価一〇〇〇円、送料一冊二四〇円

問い合わせ先 多賀城市埋蔵文化財調査センター

〒九八五 多賀城市中央二二七―一

TEL 〇二―三六八―〇一三四